

# アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.



アートって何だろう!?

[ 昭島ケアパークそよ風 ]

〒196-0022  
東京都昭島市中神町1381番地1  
042-500-7835

# アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.

「アートあ」は、アートアクションの愛称。はじめてアートにふれてみる。毎日にアートをプラスする。アートをとおしてモノや社会の見え方が変わる。そんな「あ」っとする感動や体験をしていただきたい。その思いからスタートしたプロジェクトです。

## CONTENTS

# 001

SUMMER 2022

- 03 アートの紹介 — アートの風 —
- 07 BGMの紹介 — 音のそよぎ —
- 11 香りの紹介 — 香り立つ... —
- 13 フラワーデザイナーの紹介 — フラワーアレンジ —
- 15 寄稿エッセイ  
— レッツ・エンジョイ・クラシック!  
[クラシック・ソムリエ 田中 泰]
- 17 イベントの紹介  
— アートワークショップ —

発行/株式会社  
編集長/サトマキ  
編集・構成・コピーライティング/栗原 勲 (RED)  
アートディレクション・デザイン/RED  
校正/佐藤 元、加藤 妹、高橋 博示 (昭島ケアパークそよ風)

## アートアクション・タイムズ 創刊のご挨拶

こんにちは。初めまして。私は株式会社  
のアートディレクター・佐藤麻紀子と申します。これからちょくちょく、みなさんの  
ところにお邪魔することになります。見かけた時はどうぞサトマキさん、サトマキ  
ちゃん、サトマキ、と呼んでくださいね。今号からはじまった アートアクシ  
ョン・タイムズ、みなさまの施設・昭島ケアパークそよ風の今の情報をお伝えする  
冊子です。3か月に一度、発行されますので、楽しみにしててください。

みなさん、もうご覧になりましたか？玄関と4階の談話室の斬新なお花と、ダイ  
ニングルームこもれび・4階談話室に飾られた現代アートたち。そして、館内では素  
敵な音楽が流れ、玄関ホールと4階談話室では香りも香っていますよね。これは、  
私が施設のスタッフさんたちと相談して、ご入居のお客様方がどうしたらもっと  
心が元気になってくれるか、考えて導き出した答えのひとつです。

今までも健康に気を使い身体のケアを行われてきたと思いますが、心のケアは  
いかがですか？ご自宅にいらした頃は、大切な人との会話、散歩して目にする  
ちょっとしたワクワク、ちょっとしたお買い物。そういった日々の小さな楽しみが、  
毎日をちょっと元気にするスパイスだったのではないのでしょうか？そんなみなさ  
んに、どうやったら、小さな幸せを感じてもらえる？と考えました。

そこで思いついたのが、現代アート作品を飾ること、斬新なデザインのお花を飾  
ること、素敵な音楽を流すこと、そして香りを焚くこと、です。継続的にこれらを  
日々感じることによって、みなさんが少しでも感性豊かに元気になってゆくこと  
を願って、その道のプロの方々と作り上げました。

このアートアクション・タイムズは、そんな私のパートナーのプロフェッショナル  
の方々の思いをご紹介する冊子です。

さらに、アートイベントもやっていきます。

それでは、今月号からどうぞよろしくお願いいたします。

# FINE ART

アートの紹介

## アートの風

みなさんの施設に飾ってある作品は、現代アートといって、現代(今、同時代を生きている)のアーティストさんが描いた作品です。

これらはみな、個人のコレクターさん(所有者さん)からお借りしてきた作品群です。その所有者さんの、このコレクションに込めた思いを伺って来ました。今回は中尾浩治さんです。



## FINE ART 001

クサナギ シンペイ  
Shinpei Kusanagi

遠雷 Distant Thunder

460×383mm アクリル キャンバス 額装 2017年

作家プロフィール：1973東京生まれ。1997麗澤大学英語学科卒業。1999桑沢デザイン研究所、2001セツモードセミナー卒業。2005アーティストインレジデンス「A.I.R.-Vienna」(ウィーン)において滞在制作。2007アーティストインレジデンス「Village nomade」(スイス)において滞在制作。



art collector

中尾 浩治 さん 合同会社アート・マネジメント・しまなみ CEO

医療機器メーカーに長年勤務、その関係で約15年、欧米で生活、現代アートを知る機会を得る。コレクションは現地で出会ったアーティストおよび日本の作家で構成される。作品そのものが重要であることは勿論であるが、作家本人と会い、話し、背景を知ること大事。そのような出会いから刺激を受ける。2016年から広島県のアート企画に携わりいくつかの市で企画

展を開催。現在の仕事は、医療機器イノベーションの大学教育とベンチャー支援を他がける。生まれ故郷の広島県尾道市にスペースを持ち、コレクションを一般公開。また現代アート、音楽の分野のアーティストに応援の一環として場所を提供する。スペースはCafe&Barとして運営しており、時々だがパーティーも務める。



## FINE ART 002

大竹 伸朗  
Shinro Ohtake

雄鹿 Hind

530×433mm 油彩 キャンバス 2008年

作家プロフィール：1955年東京目黒区生まれ。1979年に初作品発表、1988年制作拠点を東京から愛媛県宇和島市に移す。2006年初回顧展「大竹伸朗 全景1955-2006」展（東京都現代美術館）。ソウル、ロンドン、シンガポールなどで個展、ドクメンタ（カッセル）、ヴェネチア・ビエンナーレ（ヴェネチア）、ヨコハマトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭はじめ国内外の企画展に参加。

アートって、  
良く分からないですよね。  
それで良いんです。



art director サトマキ

みなさん、はじめまして。サトマキです。いよいよ今月から、現代アート作品を施設に飾るようになりました。どうですか？なんだか不思議な抽象画ばかり並んでいますよね。みなさん、そもそも、アートって好きですか？時々新聞やテレビで、展覧会の情報を見ると、行きたいなあと思ったことは過去にはあるけど、実際には足を運んだことが無い。だいたいみなさんそんな感じじゃないでしょうか。私は長らくアートを仕事にしています「学芸員」(美術展などを企画して、みなさんに選定した作品をお見せする人)です。で、アートは身近なのですが、時々大学で講義をしたり一般の方々に講座を行うと、みなさん、アートって何か分からない、理解が難

しい、このように仰います。アート、とっつきにくいですよ。良く分からないですよ。それで良いんです。アートを分かる、理解する必要なんて無いんです。

アートは、自分自身の内面、心を覗く鏡、なんです。なんだかこの絵を見ると、ざわざわとして不安な気持ちになる、なんだかこの作品見ると、ワクワクした気分になるみたい、そういう「自分自身の心を感じる装置」だと思ってもらえば良いです。

もちろん、アートを仕事にしている私にとっては、多くの人がよりアートを好きになってもらいたいし、アートに興味を持ってもらって、「理解する」まで至ってくれたら、もっと楽しい地平が開けるとは思いますが、まずは、自分の心がどう傾くか、を感じるだけで良いのです。その一点に集中しましょう。そうして、何かしらの感情に気が付いたら、それを分析してみましよう。「どんな気分？何をしたくなる？何をしたくなくなる？次もこれを見てみたい？それとももう見たくない？」そして、それをまた見てみたい、頻繁に見てみたい、と思ったら、それが「興味」です。興味を持った気に入った作品

を、覚えておきましょう。覚えられない人はメモしましょう。写真を撮る、でも良いです。そして、私やスタッフさんに教えてください。その人の他の作品が載っているカタログなり本なりを借りて来て、あなたにお見せします。そしてそれらの作品がやっぱり好きだったら、あなたはそのアーティストさんが好きなんです。理由は人さまざま、作品さまざまだと思いますが、好きなアーティストを見つけたということ。その先には、沼が待っていますよ、どんなそのアーティストさんの作品を観たくなくて、その方のことを知りたくなくて、時代背景を知りたくなくて、作品のモチーフについて考察したくなくて。それはすっかり「ファン」というものです。それが「作品の理解」へとつながります。いったん作品が理解出来ると、とてつもない楽しみが待っています。でも、それは次のステップ。まずはいったん、自分が興味があるか、どう感じるかを考えてみる、それだけで良いのです。そしてどうしてそう思う？と考えてみてください。それがあなたの心を覗く第一歩なのです。

# MUSIC

BGMの紹介

## 音のそよぎ

この昭島ケアパークそよ風には、音楽セレクトターさんたちが厳選した楽曲が、BGM（バック・グラウンド・ミュージック）として流れています。昭島オリジナルセレクトの1週間をどうぞお楽しみください。



producer

清宮 陵一 さん

NPO法人トッピングイースト理事長/合同会社ヴァイナルソユーズ代表

1974年東京都生まれ。音楽プロダクション・ヴァイナルソユーズではさまざまな音楽家らと協業する傍ら、特別なヴェニューや公共空間でのパフォーマンスを多数プロデュース。トッピングイーストでは地元・東京都に根差したプログラムを展開。2021年『隅田川怒涛』を実施。

今回お聴きいただく音楽は、一週間をひとつのサイクルとして、1日の目覚めから眠りまでの時間を意識できるつくりにしました。また、情景が浮かんで、まるで日本中を世界中を旅する感覚を持てたり、ときに人生を懐かしみ昔話に花が咲く、誰もが知る曲もかかります。プロの選曲家による多彩な音楽をお楽しみください。

医療的視点での  
アドバイザー



医師、医学博士

稲葉 俊郎 さん

軽井沢病院 院長・総合診療科医長、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授を兼任(山形ピエンナーレ2020 芸術監督 就任)

単著『いのちを呼びますもの』、『いのちのちのちのいのちへ』(アノニマ・スタジオ)など。

MUSIC SELECTOR

03



ライター

大石 始 さん

地域と風土をテーマとする文筆家・選曲家。旅と祭りの編集プロダクション「B.O.N」主宰。著書に『盆踊りの戦後史』(筑摩書房)、『奥東京人に会いに行く』(晶文社)、『ニッポンのまつリズム』(アルテスパブリッシング)、『ニッポン大音頭時代』(河出書房新社)など。オンラインラジオ「WAH! Radio」で各地の民族音楽を紹介する番組「folkloric」を担当。現在の連載に月刊「東京人」の「まちの記憶、音の風景」など。

MUSIC SELECTOR

02



音楽家

蓮沼 執太 さん

1983年、東京都生まれ。「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、インスタレーション、パフォーマンス、彫刻、映像、プロジェクトなどを制作する。アジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)のグランティ、文化庁・東アジア文化交流史に任命されるなど、国外での活動も多い。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

MUSIC SELECTOR

01



クラシック・ソムリエ

田中 泰 さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スプートニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

ライター

## 大石 始 さん



## SELECT 主な楽曲

入所者の方々が日々暮らす空間でどんな音が鳴っていたら心地いいだろう？ そんなことを考えながら作品を選ばせていただきました。朝は爽やかな空気に溶け込む静物画のような作品を。昼は他の入所者の方との会話のきっかけになるかもしれない童謡やわらべうた、民謡を。夜は時に健やかな眠りへと誘い、時に懐かしいあの時代へタイムスリップする作品を。皆さんの暮らしにちょっとした色合いを加えることができたら、これほど嬉しいことはありません。



■曲名: さくら変奏曲 ■作曲家: 宮城道雄 ■主な演奏家: 渥美幸裕 ■録音年: 2018年



■曲名: 椰子の実 ■作曲家: 大中寅二 ■主な演奏家: キラク座 ■録音年: 2015年



■曲名: 大島節 ■作曲家: (民謡) ■主な演奏家: ザ・ピーナッツ ■録音年: 1963年 ©キングレコード



■曲名: 星影のワルツ ■作曲家: 遠藤実 ■主な演奏家: 大工哲弘 ■録音年: 2013年

音楽家

## 蓮沼 執太 さん



## SELECT 主な楽曲

音楽は目に見えないものではありません。一日の時間の变化に寄り添うように、な万世不刊な楽曲をセレクトさせてが空間におとずれて欲しいと思って

すが、空間を彩る力があります。一空間の彩りを淡く変化していくよういただきました。常に新鮮な空気感があります。



■曲名: Watermusic/ウォーターミュージック ■作曲家: William Basinski/ウィリアム・バシンスキー ■主な演奏家: William Basinski/ウィリアム・バシンスキー ■録音年: 2001年



■曲名: 間奏曲集、4つのバラードより&2つのラプソディ Intermezzo No.2 in B-Flat Minor, Op. 117 Andante non troppo e con molta espressione ソニー・ミュージックレーベルズ ■作曲家: Johannes Brahms/ヨハネス・ブラームス ■主な演奏家: Glenn Gould/グレン・グールド ■録音年: 1960年



■曲名: Music For A Large Ensemble/ミュージック・フォー・ア・ラージアンサンブル ■作曲家: Steve Reich/スティーブ・ライヒ ■主な演奏家: (Large Ensemble) ■録音年: 1978年 ©ユニバーサル ミュージック



■曲名: The Room A Light/ルーム・アライト ■作曲家: Harold Budd/ハロルド・バッド ■主な演奏家: Harold Budd/ハロルド・バッド ■録音年: 2000年

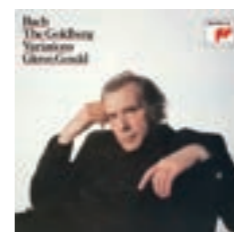
クラシック・ソムリエ

## 田中 泰 さん



## SELECT 主な楽曲

朝から夕べへと移りゆく時間を、クラシック音楽のジャンルと編成によって表現したいと考えました。爽やかな朝を演出するシンプルかつスッキリとしたピアノや器楽曲に続き、午後から夕方にかけて徐々に編成を大きくした華やかでゴージャスな音楽をお楽しみいただきたいと思います。さらには、1週間の流れをクラシックの時代の変化で表現します。バロックから古典派・ロマン派を経て近現代に至る音楽の深化と変化をご堪能ください。



■曲名: ゴルトベルク変奏曲/Goldberg Variations, BWV 988 ソニー・ミュージックレーベルズ ■作曲家: J.S.バッハ/J. S. Bach ■主な演奏家: グレン・グールド(ピアノ)/Glenn Gould ■録音年: 1981年



■曲名: ショパン&ラフマニノフ: チェロ・ソナタ他/Chopin: Cello Sonata in G Minor, Op. 65: Rachmaninov: Cello Sonata in G Minor, Op.19 ■作曲家: ショパン/Chopin、ラフマニノフ/Rachmaninov ■主な演奏家: アレクサンドル・クニャーゼフAlexander Kniazev(チェロ)、ニコライ・ルガンスキー Nikolai Lugansky(ピアノ) ■録音年: 2006年



■曲名: モーツァルト: ピアノ協奏曲第20番、25番 Piano Concerto No.20 in D Minor, K.466 Piano Concerto No.25 in C Major, K.503 ■作曲家: モーツァルト/Mozart ■主な演奏家: マルタ・アルゲリッチ Martha Argerich(ピアノ)、クラウディオ・アバド Claudio Abbado(指揮)、モーツァルト管弦楽団 Orchestra Mozart ■録音年: 2013年 ©ユニバーサル ミュージック



■曲名: ドヴォルザーク: 交響曲第7番・第8番・第9番「新世界より」他 ソニー・ミュージックレーベルズ ■作曲家: ドヴォルザーク/Dvořák ■主な演奏家: ジョージ・セル George Szell(指揮)、クリーヴランド管弦楽団 Cleveland Orchestra ■録音年: 1958年&1959年

# AROMATHERAPY

## 夜の香り「夢心地」



Lavender/Sweet orange/Bergamot/Petit-grain/Eucalyptus radiata/Sandalwood  
ラベンダー／スイートオレンジ／ベルガモット／プチグレン／ユーカリラジアータ／サンダルウッド

### 夢心地の眠りを

暮れなずむ空に舞う桜の花びらを眺めているような夢心地をイメージしました。リラックス作用のあるラベンダーと心を朗らかにするシトラスの香りが相まって、優しく微笑むように寄り添います。ウッディーな白檀の香りは心身の緊張をほぐし、ユーカリは呼吸を楽にしてくれるでしょう。安心感に包まれ、どうぞ夢心地でぐっすりとおやすみください。

## 朝の香り「海辺散歩」



Lime/Spearmint/Peppermint/Lemon-grass/Juniper berry/Cedarwood  
ライム／スペアミント／ペパーミント／レモングラス／ジュニパーベリー／シダーウッド

### 朝の海辺で爽やかな朝を

朝の海辺を散歩していると、陽光と潮風が新しい一日の活力をもたらしてくれます。どこまでも広がる海と朝の陽射しの清々しく明るい空気をイメージした香りです。思考をすっきりとさせて覚醒する爽やかなミントの香りに、きらりと輝くライムの香り。ジュニパーベリーは針葉樹らしい瑞々しさを精神を健やかにするだけでなく、遠い夏のジントニックの香りに重なるかもしれません。シダーウッドの深く甘みのある香りが呼吸を深くします。ゆったりと朝のエネルギーを深呼吸して、一日をスタートしましょう。

## 香りの紹介

# 香り立つ…

玄関ホールと4階談話室で、何やら香っていませんか？  
良い香りだと思われましたか？  
そうですね、実は、今回、新たに香りを導入しました。  
実はこの香り、香りのプロが施設に合わせて調香（香りを調整すること）してくれた、特別な香りなのです。これから、季節に合わせて、毎回少しずつ香りを変えて、みなさんにお届けします。



IFAアロマセラピスト  
アロマスペースデザイナー

## 大橋 マキさん

好きな香りをかいで心地よい気分になったことはありませんか？アロマセラピーとは、嗅覚のメカニズムを利用した植物療法です。植物から抽出した芳香物質（精油）の分子は、鼻腔を経て、嗅細胞で電気信号に変換されて脳へと伝わります。精油は、脳が関わる感情や記憶、様々な活動に働きかけ、リフレッシュや鎮静など作用します。また、自然の香りによって、季節感や生活リズムを上手に取り入れる手軽な方法でもあります。香りとともに清々しい朝を、夢心地の夜を、上質な日常を過ごしていただけたらと願いブレンドさせていただきました。

大橋 マキ Maki Ohashi / IFAアロマセラピスト / アロマスペースデザイナー 放送局を退職後、英国に留学。植物療法を学ぶ。アロマセラピストとして6年間の病院活動を経て、アロマ空間演出の他、精油の地産地消や企業ブランディングにも従事。自身が代表を務める一般社団法人はっぶでは、園芸療法を用いた認知症ケアや農福連携にも取り組む。アロマブランド「aromamora」では季節のブレンドを製作。執筆、ラジオ出演、講演多数。

# FLOWER

## フラワーアレンジ

フラワーデザイナーの紹介

今月からフラワーデザイナーさんにデザインしてもらって、お花を飾っているのです。このページでは、毎回施設に飾られているお花をデザインしてくれるフラワーデザイナーさんを紹介しします。

お花は毎月変わるためお花そのもののご紹介は出来ませんが、デザイナーさんをご紹介することで、そのお花を身近に感じて欲しいなと思っています。



フラワーデザイナー&スタイリスト

**松本 由利 さん**

花を飾る際には、その花をどのような方がどのような気持ちで見るとかを考えて選ぶようにしています。花を目にすることで、癒しやリラックス感を感じることでしょう。また、花があるところには、不思議と人が集い、会話が生まれるので、元気や楽しみの源にもなります。これは、まさに「フラワーパワー」。なかなか外に出られない時でも、花を目にし、触れることで、自然の豊かさを味わう機会にもなることでしょう。

松本 由利 Yuri Matsumoto / フラワーデザイナー & スタイリスト

英国人デザイナー、ジェーンパッカーの元でデザイナー、インストラクターを務めたのち独立。「花と食」「花とインテリア」といったさまざまな分野とのコラボレーションレッスンを企画運営。スタイリッシュな花を得意とする。フラワーショップkusakanmuriが主催する「草冠の学校」でも講師をつとめる。





人間は  
70歳を超えるくらいから  
クラシックが好きになる

みなさんこんにちは。今月から施設内に流れる音楽のセレクトターを務めることになりました田中泰です。僕の担当ジャンルはクラシックです。さてみなさん、クラシックはお好きですか？それ以前にどのようなイメージをお持ちでしょうか？「敷居が高い」「難しい」「何を聴いて良いかわからない」というイメージを持たれている方が決して少なくないのがクラシックの現状です。統計的にも、日本におけるクラシックの愛好者数は、全人口の5%にも満たないという衝撃的な

好きな曲との出会いがとても  
大切。さまざまな演奏で  
聴き比べてみよう

そのきっかけは、「好きな曲との出会い」です。クラシックは「再生芸術」、つまり400年ほど前から今に至るまでの長きにわたって古今東西の作曲家たちが創り上げ、時の荒波の中で淘汰され、絞り込まれてきた名曲中の名曲を味わうという独特の世界です。それは、歴史的な文学作品を読むことにも似ているように思えます。バッハやベートーヴェンの作品を聴くということは、シェイクスピアやゲーテの名作に親しむことと同じだと考えると話が早いでしょう。読書において好きな作品との出会いが重要なように、クラシック音楽の世界でも、好きな曲との出会いがとても大

数字が示されています。若い人たちのクラシック離れも懸念され、このままではクラシック音楽ファンが居なくなってしまうのではないかと心配の声も聞こえてきますが、「大丈夫、人間は70歳を超えるくらいからクラシックが好きになるものさ」などというお気楽な意見があるのも事実。そしてその言葉を裏付けるように、歳を重ねるうちにクラシックの良さに気付いて好きになるケースが多いようなのです。これは一体なぜでしょう。その答えは、私達が住む日本の環境にあるようです。日本は、子どもたち全員に音楽教育を施すという、世界でも極めて珍しい国なのです。ちなみに「音楽の都」として名高いオーストリアのウィーンにおいて子

切なのです。好きな文学作品に出合えばその作家の他の作品を読みたくなるように、クラシックにおいても好みの曲が見つかったなら、その作曲家の他の作品を聴いてみたくなって不思議ではないはずです。クラシックの奥深さは、そこに「演奏者」という要素が加わることです。好きになった曲をさまざまな演奏で聴き比べてみると、そこには自分の好みの演奏者との出会いが待っています。すると今度は、その演奏者が演奏する他の曲を聴いてみたくなるに違いありません。ここまでできたら立派なクラシック音楽ファンの出来上がりです。この施設内に流れる音楽の数々に是非耳を傾けてみてください。きっとお気に入りの曲との素敵な出会いが待っているはずです。レッツ・エンジョイ・クラシック！

供が音楽を学ぶためには、「ウィーン少年合唱団」の拠点であるアウガルテン宮殿内の小学校に入学するしかないそうです。ところが日本の子どもたちは、小・中学校を通して、音楽家たちの肖像が飾られた音楽室でさまざまな音楽に接する機会を持つのです。この教育がクラシック音楽ファンを育むとは思えませんが、様々な音楽が刷り込まれていることは間違ありません。さらには、TVC Mやドラマの中でも実に多くのクラシックが使われています。つまり受け入れ体制はすでにできていると言っても過言ではないでしょう。あとは、きっかけ次第です。

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スポーツニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。



クラシック・ソムリエ  
田中泰さん

ART  
ACTION  
EVENTアートの  
対話型鑑賞会

グループで一つの作品を見ながら、感じたこと考えたことを話し合うことで、作品の見方を深めていきます。知識は必要ないため、美術鑑賞が苦手だと思っている人も楽しく参加できます。みて、考えて、話して、聴くという行為を繰り返すことで、長期的には思考力の向上が報告されています。絵画鑑賞が初めての方も、お気軽にご参加ください。

## #1 物語を楽しむ

8/16(火) 13:20~14:50  
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

1回目のテーマは「物語を楽しむ」です。鑑賞の初心者はアート作品の中から物語を見つけ、物語を語る傾向があることがわかっています。初めて体験する対話型鑑賞では誰もが有しているこの力を使って、作品に描かれている物語を想像し、語り合います。1作目のジョルジュ・ラ・トゥールの《女占い師》と2作目の月岡芳年《藤原保昌月下弄笛図》のどちらも、登場人物の間にスリリングな駆け引きがあります。今まさに何が起っているのか、次の瞬間に何が起こるのかに心が奪われ、対話に引き込まれることになるでしょう。

## #2 母と子

8/23(火) 13:20~14:50  
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

2回目は「母と子」の姿をテーマにします。1作目はルノアールの柔らかな色と光に満ちた幸福感溢れる《母子像》。2作目は静けさや純粹さ、憂鬱といったさまざまなイメージが喚起されるピカソ「青の時代」に描かれた《海辺の母子像》。3作目は1930年代、世界恐慌のために出稼ぎにきた母と子の姿を撮影したと言われているドロシー・ラングの《移民の母》。子を慈しみ、守ろうとする母親の姿を語っていきます。

## #3 印象派

8/30(火) 13:20~14:50  
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

3回目は世界中の人が愛する「印象派」をテーマにします。1作目は印象派の画家たちに多くのインスピレーションを与えた、マネの傑作《フォーリーベルジュールのバー》。パリの賑やかな酒場の煌めきに満ちた空間と微妙な心の機微を味わいます。2作目は移りゆく自然の光と影を画布にとどめた、印象主義の体現者・モネの《日傘を指す女》。3作目は当時の最新の色彩理論を研究し、新しい絵画技法を発明した画家スーラの《クールブボワの橋》。写真ができた時代に、画家たちが発明した画期的な絵画をみていきます。

## #4 音

9/6(火) 13:20~14:50  
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

4回目は、聴覚「音」をテーマにします。1作目は葛飾北斎の《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》。2作目は一転して、ルソーの《夢》。鬱蒼としたジャングルの中に夢のように現れた横たわる女性、笛を吹く人物と動物たち。3作目のビュフェの《モーツァルト》は、鍵盤や弦楽器、楽譜といったモチーフだけでなく、色や形や筆致から音が聞こえてきそうです。

## #5 自然と人

9/13(火) 13:20~14:50  
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

5回目のテーマは「自然と人」。1作目の歌川広重の《大橋あたけの夕立》では、急に降り出した夕立に、橋を走って駆け抜ける人々の様子や暮らしぶりから日本の自然観を楽しめます。産業革命後の西洋では改めて自然を見直し、自然にむけた憧憬も生まれました。2作目はゴーギャンの《No te aha oe riri (Why Are You Angry?)》では、タヒチの生命力溢れる自然と人々の暮らしに思いを馳せます。3作目はゴッホの《星月夜》では、満天の星空とその下に広がる村の風景を語ります。

## #6 植物

9/20(火) 13:20~14:50  
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

最終回の6回目は「植物」。すべて日本人作家の作品です。1作目の歌川広重の《名所江戸百景: 亀戸梅屋敷》では、力強く天に向かって枝を張っている梅の木とその景色、2作目の藤田嗣治の《バラ》では、花瓶に生けられたバラの花の刺々しさや、赤黒い色味から喚起されるイメージを、最後を締めくくる3作目の柴宮忠徳の《樹と石のある風景》では、こんもりと緑を茂らせた大木が湛える生命力を語ります。

せんせいのご紹介

三ツ木 紀英 さん  
(みつきのりえ)

NPO法人 芸術資源開発機構 (ARDA) 代表理事

